

令和元年 岐阜県相談窓口担当者研修会・情報交流会の報告

令和元年10月15日（火）13時15分から90分間岐阜県のOKBふれあい会館2棟7階にある7B研修室で青少年の相談窓口担当者研修会の講師をさせていただきました。岐阜県では子ども・若者育成支援推進法に基づき、各市町村における相談窓口の体制整備を目指した取組を進めておられ、子ども・若者の相談・支援窓口の担当者等を対象とした研修会の一環として主に不登校生や引きこもりのお子さんや保護者等への対応のための講座でした。参加者の奥は教育員会・教育関係者のみならず警察のOBやNPO団体、県内の青少年課の職員や社会教育関係、児童相談所関連などかなり幅の広いところからの約40名の方々が参加されていました。

主催は岐阜県子ども・若者支援地域協議会（岐阜県環境生活部私学振興・青少年課）で不登校問題をはじめ多くの青少年の問題に取り組んでおられる、実務関係者の方々の方でしたので講演の中身も実例を中心になるべく具体的な話をさせていただきました。若干時間がオーバーし質疑の時間が取れなかったのは残念でした。

「不登校の現状と支援」について不登校の何が問題なのか
～不登校を難しくしているもの～
について講演させていただきました。



金華山から岐阜市内を望む

OKBふれあい会館

<当日の参加者の感想>

○不登校や引きこもり等に対する考え方、接し方、取り組み方等、大変勉強になりました。ありがとうございました。

○相談支援者として、スキルアップ（心のスキルアップ）として聞いてよかったと思う。不登校は、学校で起こっていることなので、学校関係者に聞かせたい講話であった。

○事例を取り上げていただき、とても参考になった。今後、もし機会があれば、行政の支援についても取り上げていただければありがたいです。

○研修会の内容は、今後の活動の中で参考にできそうです。ありがとうございました。

○職場では外国人の不登校の子を支援しておりますので、今日の研修でとても勉強になりました。支援者として、今まで不安はいっぱいありますので、木村先生の話はやる気になりました。不登校のこの気持ちを更に理解することができました。ありがとうございました。

○「親子の中でも本音で言い合える関係でありたい。」最近の支援者には、子どもに本音を言うことをためらう保護者がたくさんいます。関係が悪くなることを恐れているためです。でも、こういう状況がかえって子ども理解を阻害していることを知りました。子どもの本音を聞くこと、親も正論ではなく、本音で語ることを今後、進めていきたいと思えます。今日は、大変勉強になりました。ありがとうございました。

○「心の問題」としてのみとらえるのではなく、「進路の問題」としてとらえる」という話は、教師として気を付けなければならないと感じました。実際、「このままだと高校行けんよ。」と指導したことが過去にあります。子どもの不安を増す結果になっていたことを反省しました。今後は、指導者というより支援者になれるよう、心がけていきたいと思えました。

○一昨年よりなるべく全単元受けられる日は研修会に参加させていただいていますが、本日のお話はとてもよかったです。[個別支援]というキーワードで自分の仕事にも向き合ってきたのですが、(現状はなかなかもどかしさもあります)これからも芯一本しっかり持ち支援していけたらと、今日の先生の講義を聴いて改めて思えました。ありがとうございました。

○興味深い話題でありがたかった。

○再度、木村先生の講演をお願いしたいです。